

国重文 羽馬家

羽馬家住宅は元々、五箇山から下流にある大島という集落に建てられましたが、1769年に火災があった後、現在の場所に移築されました。現在の建物の構造は江戸時代（1603-1867）の建築で、構造部分にほとんど改修や近代化が加えられていないため、古い合掌造り建築（急勾配の茅葺き屋根を持つ家屋）の貴重な例となっています。羽馬家住宅はまた、五箇山地区の合掌造りの中では小さい部類に入り、その構造は合掌造り建築が大型化する以前に一般的だった特徴を残しています。4つの部屋を持つ保存状態の良いこの家屋は国の重要文化財に指定されており、一般には公開されていません。ただし、換気のために窓が開かれていることがよくあり、その際には外から内部を覗き見ることが可能です。